

千種区民まつり「市長と中学生が夢・未来を語る」報告書

日時：平成 21 年 9 月 27 日 11 時 30 分～12 時 20 分
場所：平和公園メタセコイア広場 晴れ

《矢野さん》

これから、中学生がメインのイベントです。今日は暑いですね。雨よりはいいわね！！
区民まつりは、今日、千種区のほか、守山区と熱田区でも開催しています。私は熱田区の住民なのですが千種区へ来ています。なんでかということ 20 回の記念イベントで殿様が来ると聞いたので、姫がいないといけないと私が来ました。

この後、千種区 7 校の中学生に夢・未来を語ってもらいます。そして、市長に、これからの千種や名古屋の夢を良く聞いてもらいましょう。

また、来年は名古屋開府 400 年で大きな祭りがあります。この中でも夢と魅力を市民のみなさんから募集し、発信していきます。みなさんもこの埋蔵金さがしに参加しましょう。それでは、市長さん登場してください。(市長登場)

河村市長には、口だけじゃなくちゃんと実行して、いい名古屋にしてもらいたいですね。

《市長》

ちゃんと実行しとるがな、苦しみながら。

《矢野さん》

これから、順番に千種区や名古屋の夢・未来を語ってもらいます。市長もみなさんもよう聞いてちょうだいよ！

まずは、若水中学校です。

若水中学校 加藤久奈さん 大羽美音さん 深田淑恵さん

私たちが通っている若水中学校では地域との交流やボランティア活動がとても盛んです。例えば、各種の募金活動を始め、お年より訪問、若水中に隣接する千種豊学校や近くの高見小学校の運動会のお手伝い、地域の方々をお呼びして学校行事の紹介などをしたりする青少年連絡協議会があります。

そして、一番地域の方々との交流を深める場は仲田まつりです。今年は豪雨のため一度しか出来ず少し残念に思いましたが、毎年 2 回とも多くの人々が足を運ぶ大切な行事となりました。そのような古くから親しまれているような行事や文化もありつつ高層マンションなどが立ち並ぶセントラルガーデンといった近代的な文化が入り混ざった所が若水の特徴だと思います。

私たちは、名古屋にはいろいろと良い所があると思います。例えば、大型のデパートや様々なお店があり、いつも大勢の人でにぎわう栄や名古屋駅。全国でもトップクラスの名古屋港水族館に東山動植物園。全国屈指の賑わいを見せる商店街大須。そして、歴史を感じさせる金のシャチホコでも有名な名古屋城などです。また、食文化も独特で、味噌煮込みうどん・小倉トースト・しつまぶし・きしめん・いろいろなど名古屋名物はたくさんあります。

けれど、こんなに魅力のある名古屋なのに、私は、「名古屋は食は良いけれど、観光には向いていない」といった言葉をよく耳にします。しかし、名古屋には本当に観光には向いていないのでしょうか？私たちはそう思いません。このように言われる原因の一つに全国の人が名古屋の観光について知る機会が少ないということがあると思います。先ほどあげたように名古屋には観光スポットがたくさんあります。なので、名古屋の魅力、今ある観光スポットを積極的に今まで以上にアピールし、名古屋のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいです。そして、日本中の人に、いや、世界中の人に、「名古屋はよい街だ！」と言ってもらえるような、そんな街に、私たちが大好きな名古屋がさらに一歩前進することを期待しています。

しかし、今、世の中で話題になっている少子高齢化で、もしかしたら未来の名古屋は高齢者ばかりになっているのかもしれないと考え、自分たちが年をとった場合に、こんなもの、こんな場所があったらいいと考えました。まず、敬老パスはそのままにしてほしいです。そしてまわりの地域だけでなく、まったく知らない人たちにでも楽しく会話ができるようなそんな交流の場があるといいなと思います。そのような場所が作られれば、観光だけでなく、人々にやさしい街として一番にもなれるのではないかと思います。そうすれば、名古屋が未来の首都になるのも夢ではないような気がします。

《矢野さん》

自分たちで考えて、中学生がこんなこと言えるなんて素晴らしい。

《市長》

結構なものです。みんな3年生？非常に良い話でした。名所がないと言われるので、私は天守閣を木造で造らんといかんといっとる。まちには知名度が高いシンボルがいるんです。

《矢野さん》

天守閣を造るにはものすごいお金がいるがね。税金で造ることになるしみんなで話さんといかんがね。

《市長》

そうだけど、凶面が残っているから、本物の名古屋城を造りたいだわ。名古屋のめしは質素なんだわな、侍のまちだから。

《矢野さん》

では、今池中学校です。

《市長》

わしゃ、古出来に住んでたけど、大曾根より今池で、ギョウザ食って一杯飲んでたよ。

今池中学校 尾藤菜摘さん 馬 夏鈴さん 渡邊香澄さん

千種区の中でも、私たちの通う今池中学校の学区には、今池商店街というとても大きな商店街があります。ダイエー・ピアゴなどといった大型スーパーから個人で経営されている様々なお店、中華をはじめとした多種多様な飲食店で商店街はにぎわっています。そんな今池商店街の人を中心に毎年9月に今池まつりと言うお祭りが行われています。今池まつりは今池大バザールを中心として今池音頭が踊られたり、大道芸や様々なライブがあったりと様々なイベントが行われます。今年からはみこしも加わり、さらににぎやかになりました。このお祭りがあることも今池商店街が活気のある秘訣かもしれません。

さて、突然ですが、台湾ラーメンの元祖とされるお店が今池にあります。市長さんご存知ですか？そのお店は味仙です。30年ほど前、味仙の主人である郭さんが、台南（たいなん）名物の担仔麵（たんつーめん）を激辛にアレンジして作った賄い料理が起源といわれています。この料理は、郭さんが台湾出身であることから台湾ラーメンと命名したそうです。なので、台湾には台湾ラーメンはないそうです。

次に、今池という地名の由来は何だと思いませんか？今池はもともと湧き水の多い地域で、江戸時代には東西180メートル、南北100メートルにも及ぶ大きなかんがい用の池があったそうです。この池は、街道を通る馬に水を与えたり、それらの馬を洗ったりしていたことから馬池と呼ばれていたそうです。それがなまり、今池と呼ばれるようになったことが、今池の由来だといわれています。地下鉄の今池駅のすぐ近くにある今池ガスビル付近には、馬の親子の銅像や今池の名の謂れが書かれた石碑、今池の大昔のことが書かれたモニュメントがあります。もし機会がありましたらぜひ見に来てください。そんな歴史のある私たちのまちのいい所を残していけたらと思っています。

中学生発表中の質問に対して

（台湾ラーメンの元祖は？）

《市長》味仙ちゅんだがや、よう知っとるじゃろ。ひき肉がようけい入ってて。

（今池の由来は？）

《市長》今池は、中学校のところに池があった。水がすごくいいところだった。

《中学生》正解！

《市長》これは事前に打合せないでな。やらせじゃないですよ。すごいでしょ！

《矢野さん》市長は、やらせができないし、台本がないからね。

《矢野さん》

では、次、生徒振甫中学校です。

《市長》 につぼん男子がんばれ。

振甫中学校 筒井 諒さん 西原拓弥さん

千種区には、地域をあげてのイベントや祭りが多く、活気があります。例えば、この区民まつりや今池・仲田・池下の商店街のまつりです。中でも、毎年春・夏・秋に行われる覚王山のイベントは、日本で唯一のお釈迦様の遺骨を安置する日泰寺のもと、国際色豊かな食べ物や民芸品、工芸品等の文化を通じたふれあいの場や美術作品等の表現の場を提供するユニークな催しとして、僕のお気に入りです。

また、千種区は東山の森や水道みち緑道のサクラ、千種公園のユリ、茶屋ヶ坂公園のアジサイそしてこの平和公園と自然も豊かです。河村市長！古くからのものや緑豊かな自然を残し、国際的、芸術的文化を融合させ、暮らしやすさに加え、他の地域にはない特色あるまちづくりを我が千種区から発信していくのが僕の夢です。そのための手始めとして、路上駐車、自転車の放置や無灯火、歩道の暴走など交通弱者の敵を排除し、誰に対しても優しいまちにしていってほしいと思います。

僕たちの住む振甫学区は、ハイソサエティな千種区の中でも、下町気質（かたぎ）をもっています。とても人情豊かです。伊勢湾台風から50年、人とのふれあい、助け合いはどこかのラーメンではないけど「やめれーせん！」。困っている人に手をさしのべることは、どこかのビールではないけれど「むっかしから決まっとる」そこで、振甫中学校では、世界に目を向け、困っている人に手をさしのべようと、今年からS L I C運動（Save Life In Cap の頭文字をとった造語）と名づけた活動をしています。

これは、地域でペットボトルキャップを回収し、毎月学校へ持ってきて、それを業者に送り、ポリオワクチンに変えて、発展途上国に送りその子どもの命を救うというものです。ペットボトルキャップは、800個でワクチン1人分になります。毎月約15,000個集まるので、振甫中だけで、毎月18人の子どもの命を救えます。また、ペットボトルキャップの分別回収は、再資源化することによりCO2の削減など環境にやさしい運動です。

最後に、今年の夏、「振甫」の名のつく伝統ある施設「振甫プール」がなくなってしまいました。様々な理由があったと思いますがとても残念なことでした。そこで河村市長！市長のご自宅の目と鼻の先の辰甫学区から住民にとって大切なものをなくさないでください。そして、住民が今まで以上に愛着と誇りがもてるような街を一緒につくって行きましょう。

《市長》

わしは振甫プールのことは、新聞見るまで知らなかった。昔、自転車で行ってプール前にあるこんにやく味噌おでんを1本5円で食べたわ。

《矢野さん》

なくす理由には、古くなった、子どもが少なくなった、いろんな理由がある。守りたいならみんなの意識を集めて守らないと。

《市長》

千種区の素晴らしいところは、昔のまちを知っている人を残している。振甫は張振甫さんという中国からきた医者だけだ。

《矢野さん》

とてもいい感じになってきました。市長さんのスケジュールを延ばしてでも、中学生といっぱい話したほうがいいわ。ペットボトルキャップ回収はとてもよい発言でした。

《中学生》

市長さん、矢野さん、ご無礼します。

《矢野さん》

では、次、千種台中学校です。

千種台中学校 山田育実さん 猪子紗布さん 加藤千晶さん

私たちは「千種区をこんな町にしたい」というテーマで千種区への思いを考えました。では、紹介していきたいと思います。私たちは千種区が「小さい子どもからお年寄りまで安全で安心して暮らせるまち」になったらいいなあ、と思っています。

しかし、2年前、私たち千種台中学校の学区の自由ヶ丘春里町で、見知らぬ3人の男たちに1人の女性が殺害される、というある痛ましい事件が起こりました。全国的に報道されたこの事件から、私たちの身近にも危険は潜んでいるということを学びました。そこでどうしたら千種区の人たちが安全で安心な暮らしができるかを考えてみました。

まずは、交番が増えたらいいなと思います。千種台中学校の学区には交番が2つしかありません。しかも、そこにいる警察官も少ないため、パトロール等に出かけていると、交番に人がいないこともあるそうです。先ほど紹介した事件は交番の近くで起こりました。しかし、人が不足していたため、防ぐことができなかったのだと思います。

次に電灯も、もっとあったらいいなと思います。千種台中学校の学区は、住宅地が多いこともあり、電灯があまりありません。そのため、夜になるとあまり細い路地ではなくても、暗いため、1人で出歩くのはとても怖いのです。だから、もう少し電灯を増やして、安心して出歩けるようにしてほしいです。そうしたら、千種区のまちの雰囲気も明るくなるので、一石二鳥だとは思いませんか？

このような安全な暮らしを実現するためにできるのは、設備等を整えたりすることだけではありません。自分たちで出来ることもたくさんあります。例えば、防犯ブザーを持つなど、個人のことはもちろんのこと、地域の方たちと交流を深めるということも大切だと思います。地域の方たちとの交流を深めることによって、「もしも何か起こったときに地域全体で助け合うこともできるので、さらに、より良い地域になっていく」と思いませんか？

私たちの学校では、地域の方たちとの交流を深めるのを目的として、学区のお年寄りの方々に暑中見舞いや年賀状を送っています。また、学校の前では、毎朝、先生方や委員会の人達が挨拶運動をしています。「挨拶」は1番簡単な地域の方たちとの交流を深める方法です。みなさんも、そういう簡単なことから、地域の方たちとの交流を深めていきませんか？そういうことが、千種区をよりよい方向へ導く第一歩となるでしょう。

《矢野さん》

素晴らしい発表でした。

《市長》

わしがやりたいことを言ってくれた。日本で始めて地域委員というのをつくって、みんなに学区のことをまかせ、みんなでやる。

《矢野さん》

私が子どものときはかぎっ子でした。その頃、親はいなくても、近所のみんなからお帰りとってもらった。今は人がでていない。みんなで守る地域がない。

《市長》

今は縦割りで仕事をしておりお金がもったいない。それより横割りで効果的にするため地域にお金を付けてまかせる。名古屋市は「ユナイテッド・ステーツ・オブ・ナゴヤ」という独立国になり、それを公務員が手伝う。そうゆうまちをつくりたい。

《矢野さん》

では、次、城山中学校です。

城山中学校 内藤貴之さん 三品藍司さん

私たち城山中学校では、生徒会活動の1つとして、環境問題に目を向けてきました。自分たちのできるところから始めようと、全校生徒に呼びかけて、節水や節電に関する川柳・ポスターを募集したり、ボランティアを募って桜の落花清掃やトイレ清掃を行ったりしました。また、COP10に興味をもち、各学級に書籍を置いたり、実際に生徒会役員がCOP10事務局へ取材に行ったりして、生徒一人ひとりが環境に目を向け、自然との共生に向けて自分でできることを考えるきっかけづくりをしてきました。

私たちの住む千種区に目を向けると、意外にも身近なところに、豊かな自然がたくさんあります。しかし、私たちは、その自然の価値を考えることなく、自然を守るどころか、自然の減少に手を貸しているのが現状です。そこで私たちは日本一の面積を誇る東山動植物園や、様々な生物が生息しているこの平和公園をはじめとするこの自然豊かな千種区の魅力をもっと千種区民に発信すべきだと考えました。

方法としては、「広報なごやの千種区版」を使ったり、「名古屋市ホームページの千種区情報」を拡充し環境特集を組んだりすればいいと思います。また、小中学生からポスターや標語を募集し、入選作品を印刷し、各家庭に配布して家の中に掲示してもらえば、それを各町内の回覧板で回覧したり、掲示板に貼ったりしてはどうかと思います。

私たちは、このような方法で、千種区民の自然環境に対する意識を高め、区民一人ひとりが自覚をもって、身の回りの小さな誰もができることから取り組んでいけば、きっと大きな力になっていくと思います。区民一人ひとりという小さな力を結集し、大きな力に変えていくことが、千種区で自然と共生したまちづくりを進めていく上で必要なことだと思います。こうした取り組みが名古屋市全体に広まったとき、本当の意味での「環境都市なごや」が実現するのではないのでしょうか。

《市長》

これは、わしが本当にやりたいことを言ってくれた。代わってもらったほうがいいかしれん。そのためには、お金渡すもんで選挙をやらないといかん。区も必要だけど、学区みたいなもっと身近なところで公園はどう造ったらいいかとか、並木はどうするかみんなで決める。これまで市役所が決めていたことを地域が決めるという。

《矢野さん》

その仕組みをつくりましょうよ。

《市長》

住民の方もやる力はある。今までの勢力があるもんで、あーじゃ、こーじゃするわけじゃ。

《矢野さん》

来年は、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）があり、日本では名古屋が始めて行う国際会議です。万博は世界から121カ国参加したけど、COP10には191カ国が10月に集まり、年間4万種、15分に1つの生き物が絶滅してることについて話し合います。是非、みなさんCOP10に興味を持ってください。

《矢野さん》

では、次、東星中学校です。

《中学生》

このキャラクターは、生徒会キャラクターの「なかまっち」です。

また、このT-シャツは「なかまTT」です。

東星中学校 富士本学さん 安藤由華さん 糠谷治香さん

わたしたち東星中学校は、この地域でもエコ活動が盛んな学校です。なかでも資源回収は14年間続けられている活動でアルミ缶、新聞紙、牛乳パックなどを集めています。愛地球博をきっかけに、昨年度まではエコクーびょんを集めていました。私たちはそのエコクーびょん回収の活動の輪を地域にも広げました。学校の中だけでなく、地域の方々にも環境に対する意識を持ってもらいたかったからです。そこで、スポーツセンターや地域のスーパー、さらには回覧板を利用して地域の協力を得て回収をしました。学校の資源回収、地域での回収活動で私たちは最終的に63,005ポイント集めることができ、計約4トンのCO2削減に貢献することができました。

これは、スギの木286本分が1年間にCO2を削減できる量と同じになります。このように、私たちのエコ活動の支えとなったのは、地域の方々の大きな協力なのです。回収BOXの中に応援の手紙を入れてくださったり、学校までわざわざ持ってきてくださった方もいて、私たちは身をもって、地域の方々の暖かさを感じました。

また、千種区には平和公園や東山公園があり、緑豊かな地域です。COP10が来年名古屋で開催されるとあって、千種区、特に私たちの学区では今からCOP10に向けての取り組みが始まっています。このように、この千種区は環境活動に熱心です。千種区を中心にして、さらに発展させていけば、100年後には名古屋市は他の地域のお手本になるようなエコ活動のモデル都市になるのではないのでしょうか。

昨年、わたしたちが行ってきたエコ活動が実を結び、ここ平和公園に植樹しました。千種区の名前は、「千の種」と書いて千種と読みます。名古屋がエコ活動のモデル都市になるためには、市長さんたちが率先して動くのも大切です。でも、わたしたち市民、一人ひとりがエコの種をまいて「千の種」、いや、もっと多くの種を育てていくことが大切なのではないのでしょうか。つまり、そこにある2本のユリの木は、わたしたちがまいた2つのエコの種なのです。わたしたちは、中学生だからこそできる発信の活動で種をまいています。だから、市長さんも市長さんだからこそできる活動で種をまいてください。そして、一緒にその「千の種」を育てていきましょう。

《市長》

どえらい立派なこと言うわせるもんで、足元にも及ばんわ。

《矢野さん》

素晴らしい発表と取り組みでしたが、とにかく実践していることがいいことです。

エコクーびょん、エコ活動など、とてもいいことで立派です。

《矢野さん》

では、次、千種中学校です。

千種中学校 後藤海渡さん 花井有里子さん

みなさんは、この区民まつりのオープニングで鳴り響いた「太鼓衆・香流」による太鼓の演奏を聴かれましたでしょうか。実は、僕も太鼓を叩いていました。僕ら「太鼓衆・香流」はアマチュアのグループです。「自分たちも楽しく、かつ、聞いている人も楽しく思える」そんな演奏を目指して、毎週の日曜日に練習をしています。太鼓が奏でる音は、単純ですが、太鼓の音を聞いていると、ウキウキと心が躍ります。ただ、太鼓を叩いているときに、みんなの息が合わないとなんとなく気持ち晴れずモヤモヤすることがあります。それだけに、全員の息が合って、リズムがピタリと一致したときには、何ものにもかえがたい爽快な気持ちになります。そんな瞬間は、仲間との“和”を実感します。

僕らは、この“和”を太鼓を聴いていただいている観客のみなさんにも広げ、観客のみなさんとも一体化してもっともっと大きな“和”をつくりたいと願っております。僕らは、この区民まつりのように、各地で行われる祭りなどで太鼓を叩きます。太鼓の音を通して、祭りを盛り上げることができたなら、少しですが、その地域の活性化に貢献できると考えています。いつの日か、名古屋中の祭りに招待されるようになったら、名古屋規模の大きな“和”ができ、名古屋にも貢献できると信じています。そのときまで今は練習あるのみです。

河村市長さんや矢野きよ実さんでもおなじみですが、名古屋といえば、やっぱり名古屋弁ですよ。今日は名古屋について、名古屋弁で話したいと思います。

私たちがぐらしとるうちに、なんとはなしに使っとる名古屋弁は名古屋のまちにあれせんといかん文化だがね。ほんで、名古屋弁のどえりゃあええところは、なんちゅっても、あの話しやすいところだで、いっぺんでも聞いたら耳から離れえせんもんでついつい話したなつてまう感じがええがね。

ほんで、名古屋弁を国中にばらまいて、東西の文化が混じっとる名古屋文化を国中の人たちにまねしてまいたいと思ってるがね。ほんで、未来の日本では、日本のだいたい真ん中へんにある名古屋を首都にしてまったらええなあと思っとるがね。

ほんな夢にたいな未来を想像しとるけど、ほんでもやっぱり名古屋は名古屋。ほかの地域にはあらせん独特な文化をどんどん生みだしていききたいと思っとるので、みんなであつとがんばろまい！！

《矢野さん》

やー、ものすごいまいがね。

《市長》

環境とかもいいけど、まっと楽しもまいも大事なセンスだよ。名古屋の言葉は、昔、徳川三代「家光」までは名古屋の言葉を勉強した。勉強せんと出世しんかった。記録があるんじゃよ。

《矢野さん》

誰に教えてもらったの？

《中学生》

学校の先生も名古屋の出身なので教えてもらいました。

《矢野さん》

でも、市長のことは品がない。もうちょっと品よく話してもらいたい。

《市長》

名古屋弁を使わんようになったのは、暴れん坊将軍「吉宗」に、名古屋の「つぐとも」が負けたから。吉宗以来の屈辱を晴らさにゃいかん。

《矢野さん》

来年、名古屋開府400年、お祭りを開催しますが、その中で、名古屋の魅力や夢を掘り起して、100年先まで残せるものをつくります。名古屋の埋蔵金探しです。みなさんどんどん応募してください。

市長、最後に中学生の提案、殿様どうでしたか。

《市長》

大成功ですね。これからあんたらの時代、中学生のみんなも立派になってちょうだい。

《矢野さん》

中学生から言われたことを市長さんちゃんとやってよ。

《市長》

わかつとる。やる。いろいろ注文うけたし。

《矢野さん》

みなさん、ありがとうございました。このあとも区民まつり楽しんでください。

おわり